

【敢闘賞】

為替でGO！

～FinTechによる経済の効率化！～

中央大学	経済学部	鈴木	雄大
	法学部	佐藤	雄飛
	”	輿水	天美
”	商学部	浅尾	亮太

(提言の要約)

近年、日本を訪れる外国人観光客の数は急増し、彼らによるインバウンド消費が日本の経済を大きく動かすまでになっている。他方、海外へ渡航する日本人の数も依然高止まりを続けている。こうした国境を越えたヒトの相互移動は、グローバル化の進展や新興国等の所得水準向上に伴って、日本に限らず世界中で拡大しており、今後もそのトレンドは継続していくものと考えられる。

このような状況下、同じく増大が見込まれるものとして、外貨両替需要が挙げられる。海外への渡航時、外貨両替及び現地通貨の調達は必須であり、日本国内の銀行・両替商・金券ショップ等はもちろんのこと、渡航先の空港やショッピングセンター内の両替商でも行うことができる。しかし、両替時に発生する手数料は両替場所によってその水準が大きく異なり、また全体的に見てその水準はかなり割高となっている。こうした従来の外貨両替に対抗して、FX（外国為替証拠金取引）を取り扱う業者が、格安な手数料での外貨両替サービスを開始するという動きが一部で見られるものの、口座開設や出金手続きに多くの時間を要し、また取り扱い通貨の種類も限られているために、利用者は海外旅行者のごく一部に限られてしまっている。このような現状を裏付けるべく、我々は独自のアンケート調査を実施した（資料③参照）。

こうした外貨両替の現状を踏まえ、我々は、板寄せを利用した各通貨の需要マッチングアプリとクレジットカード決済を組み合わせた新たな外貨両替システム「為替で GO!」を提案したい。クレジットカードを海外で使用した際にかかる手数料は他の両替手段よりも幾分割安であるが、本提案が実現すれば、手数料をほぼゼロにすることが可能となる。その仕組みは、旅行者が事前に海外で使う予定のクレジットカードと通貨及び使用予定額をアプリ内で登録しておくことで、各通貨における売り買いが板寄せ機能を用いて自動的にマッチングされ、クレジットカードを介して双方の外貨両替がほぼ手数料なしで行われるというものである。

従来の銀行・両替商での両替と比して手数料面で大きな優位性を有し、両替時の利便性・対応通貨の多さで FX 取扱業者の外貨両替を超える新たな外貨両替システムの誕生により、これまで外貨両替に伴い必ず発生していた割高な両替手数料という経済的な非効率性が解消される。更に、アプリ内広告を通じて観光関連企業とも提携し、両替アプリ利用による恩恵は観光産業の振興を通じて地域経済の活性化や地方創生にも大きく貢献できる可能性を秘めている。アプリ利用者の両替手数料削減、その運営主体であるクレジットカード会社の利用者増加、更には観光産業の振興と経済の効率化にもつながる新たな外貨両替システム「為替で GO!」は、各経済主体相互に win-win の関係をもたらす画期的なシステムとなるに違いない。

1. はじめに

近年、訪日外国人観光客数の増大が顕著であり、2015年にはついに1,974万人を記録し、過去最高となった。この数字は、2003年に記録した521万人の約4倍に及ぶ水準である。訪日外国人の国別内訳をみると、中国、韓国、台湾、香港など主に東アジア圏が中心であるが、2020年の東京オリンピックに向けて今後は他のアジア圏やヨーロッパ地域からの観光客数増大も見込まれると考えられる。一方で、海外へ出国する日本人の数は、過去最高を記録した2012年の1,849万人を境に減少傾向にあるものの、2015年時点でも1,621万人を維持しており、依然として高い水準で推移していると考えられる。更に2016年7月時点では前年比でプラスに転じており、徐々に出国者数増大の兆しが見えてきている。

このような国境を越えたヒトの相互移動は、世界的なグローバル化の更なる進展や新興国・発展途上国の経済成長に伴う所得水準向上を背景に、全世界で増大しており、今後もさらに増大していくと想定される（資料①参照）。さて、このように増大傾向にある海外への渡航者数であるが、出張や旅行等による海外渡航の際に不可欠となるのが、外貨両替、すなわち邦貨を外貨に、ないしは外貨を邦貨へと一定の為替レートに従って交換するという行為である。しかしその際発生する両替手数料は両替場所によってその水準が大きく異なり、また全体的に見てかなり高い水準となっている。外貨両替をどこですれば良いのか、渡航先と自国ではどちらでより手数料が低いのか、などを考えるのは非常に面倒であると同時に、一般的に両替手数料は両替の際の為替レートに内包されていることもあり、手数料が高いということ自体に気が付かないという人々も多い。次章では、この両替手数料を取り巻く現状についてより深く考察し、続く第3章で外貨両替手数料の大幅な縮小が可能となる、クレジットカード決済と板寄せを組み合わせた外貨両替アプリ「為替でGO!」を提案する。

2. 外貨両替手数料を取り巻く現状

我が国では、空港内外の両替商や銀行、郵便局をはじめ、金券ショップや証券会社、旅行代理店など、さまざまな場所で外貨両替が可能となっており、また、海外渡航先の銀行、ショッピングモール内などでも外貨両替が可能となっている。しかし、その際に発生する両替手数料は、資料②から明らかなように、両替場所ごとに大きな乖離があり、全体的にかなり割高となっている。また、流動性の低いマイナー通貨は手数料の水準がアメリカドルやユーロ、ポンド等のメジャー通貨と比較して著しく高く、マイナー通貨が通用する国々への渡航者にとっては、悩ましい問題である。それを裏付けるように、我々が独自に行

った「外貨両替に関するアンケート調査」（資料③参照）では、外貨両替で困ったこととして実に 46%もの人が「外貨両替手数料が高い」と回答した。こうした割高な外貨両替手数料の背景には主に、「在庫として抱える外貨の為替変動リスク」と「外貨を輸送するコスト」といった 2つの要因があると考えられる。

しかし、近年、FX（外国為替証拠金取引）取扱業者による格安な手数料の外貨両替サービスの提供をはじめ、後述する手数料が比較的割安なクレジットカードの海外利用等、外貨両替手段は多様化の様相を呈している（資料②参照）。

最も割安な FX 取扱業者による外貨両替は、①外貨出金手数料が発生すること、②FX 口座の開設が必要であること、③引き出し時に一週間程度かかること、④両替可能通貨が限定されていること、などの点で、従来の銀行や両替商に比べて、利便性という点で大きく劣っており、利用者はごく一部の海外旅行者に限られてしまっている。

次にクレジットカードの海外利用であるが、こちらは FX 取扱業者と比べるとやや手数料が高いものの、通常の銀行や両替商よりは両替時の手数料が比較的割安（1.6～1.7%）であり、カード 1 枚あれば全世界のカード決済対応店舗で使用可能であることから使用時の利便性も非常に高いと考えられる。

3. 提案

上記のような現状を踏まえ、我々は両替手数料の大幅な削減と両替時の利便性を同時に実現する新たな外貨両替システムとして、板寄せを利用した各通貨の需要マッチングアプリとクレジットカード決済を組み合わせた、全く新しい外貨両替システム「為替で GO!」を提案する。このシステムは、旅行者が事前に海外で使用するクレジットカードと使用予定の通貨及びその使用予定額をアプリ内に登録しておくことで、ある通貨を他の通貨に換えたいという旅行者の両替需要と、全くその逆の両替を希望する旅行者の両替需要同士がアプリ内で板寄せ機能を用いて自動的にマッチングされ、結果的にクレジットカードを介して双方の外貨両替がほぼ手数料なしで行われるというものである（資料④参照）。そして、海外で、該当するクレジットカードを利用した際に、アプリ内で外貨両替が成立した金額を上限として、両替成立時のレートでカード決済が行われるという仕組みである。クレジットカードを海外で使用した際にかかる手数料は上述のように、外貨使用額の約 1.6～1.7%と、現状既に銀行や両替商における両替よりもかなり割安であるが、本システムの適用で FX 取扱会社による両替と同水準もしくはそれ以下の水準まで手数料を引き下げることが可能になると考えられる。そして、対応通貨が一部のメジャー通貨に限られる FX 取扱業者の両替システムとは異なり、クレジットカード決済は世界中のあらゆる

る通貨で原則可能であるため、アプリ内でのマッチングが成立しさえすれば、これまで銀行や両替商において非常に高い両替手数料が発生していたマイナー通貨でさえ、格安の手数料による両替が容易に可能となる。なお、手数料がほぼ無料になるのは、マッチングが成立した通貨に関してカード会社は為替リスクを負わずに済み、マッチングを通じて各通貨の両替需要を事前に把握でき、後述する広告収入の一部を手数料軽減に充当できるからである。

また、本アプリ内に通貨需要から予測される渡航予定国・地域の観光関連企業の広告を掲載し、その広告を見てアプリユーザーが実際に広告掲載企業の店舗を訪れたり、その企業の商品購入を行った場合には、ポイントをアプリ内で付与し、次回両替時にそのポイントが使用可能になる、というサービスも同時に展開する。これにより、広告を掲載する観光関連企業からの広告収入を獲得してアプリの運営資金に充てることが可能になると同時に、両替アプリ「為替で GO!」が観光産業の振興を通じた地域経済活性化と地方創生にも貢献できると考えられる。加えて、広告掲載企業が「為替で GO!」の使用を店舗等で呼びかけることで、アプリのより一層の普及と利用者の増大が期待できる。

更に、本アプリの運営主体であるクレジットカード会社は、アプリの普及によって旅行者による海外でのクレジットカード利用の増加と、格安な両替手数料を目当てにした新規顧客の獲得という恩恵を享受することができるであろう。

そして、経済社会全体という視点で考えてみても、「為替で GO!」はこれまで外貨両替に伴い必ず発生していた割高な両替手数料という経済的な非効率を解消し、海外渡航者や訪日外国人に対して、その手数料分の還元を可能にする。また、市場の競争原理によって、他の両替手段を使用した際の両替手数料も含む両替手数料の相場全体を大きく引き下げる役割を果たし、経済の効率化に大きく貢献できると考えられる。

したがって本提案は、従来の銀行・両替商での両替よりも手数料面ではるかに有利で、両替時の利便性・複数通貨への対応性で FX 取扱業者の外貨両替システムを超える新たな外貨両替システムの誕生となる。また、両替による観光産業全体の活性化及び地方創生の推進とクレジットカード会社の利用者増加による経済の活性化を同時に実現するということを意味している。

4. 想定される課題と解決策

我々が提案する外貨両替アプリ「為替で GO!」が抱える課題としては次の 3 点が挙げられる。1 点目は両替事業に株式売買の板寄せの手法を活用する点であり、2 点目は需要が少ないマイナー通貨においても外貨両替が成立するかど

うかという点である。最後に3点目は、世界のクレジットカードの為替レート(手数料を含む)を決定している国際カードブランド²が、クレジットカード会社への本提案の導入を受け入れるかどうかという点である。

1点目については、外貨両替において各通貨の需要と供給のバランスを予測することは容易なことではないと考えられるため、時間的優位性を前提とした板寄せによる外貨両替を行い、成立しなかった場合は従来のカード決済時の手数料(1.6~1.7%)が発生する、と解釈することができる。また本アプリの有用性が社会から広く認められ、利用者拡大によって各通貨に対する需給双方が拡大すれば、マッチングが成立しやすくなるとも考えられる。本提案により、顧客は必要額の外貨両替は担保され、さらに安価な手数料による外貨両替が可能となる機会を得られる。

2点目については、1点目と同様に考えることで解決できる。つまり、本提案において需要が少ない外貨は両替が成立しにくいことが予測される。しかし、仮に不成立となった場合でも従来のカード決済時の手数料(1.6~1.7%)による外貨両替は可能となる。また、将来的に本アプリが社会に広く認知され、広告収入が増大して運営主体に十分な資金が集まるようになれば、マッチングが成立しないマイナー通貨の在庫をある程度運営側が保有し、需給を緩和させるということも可能になる。したがって顧客はマイナー通貨に関しても必要額の外貨両替を担保され、将来的にこのシステムの普及が拡大すれば、両替需給の緩和でマッチングの恩恵を受けやすくなると考えられる。

3点目については、クレジットカード会社と国際カードブランドが互いの利益向上を目的とした調整を行うことで解決できる。具体的には、本提案を導入することで削減される手数料に関して、なるべく国際カードブランドに支払われる手数料の水準を維持することが考えられる。しかし、国際カードブランドとの調整に問題が生じる場合は、国際カードブランドに対して従来通りの手数料を支払うことで既存の収益性を担保することで、導入することによるデメリットを無くす。

以上が本事業に対する課題と解決策であるが、顧客が従来の外貨両替システムを利用することなく、全ての場合に我々の提案する外貨両替アプリを利用できる手法がないかどうかをより深く検討する必要があると思われる

5. 終わりに

アベノミクスの最大の成果ともいえるのが観光政策である。2012年から2015年の3年間で劇的に伸びた経済指標のひとつとして、インバウンド関連の指標が挙げられる。訪日外国人旅行者数は836万人から約2倍の1,974万人に、訪

日外国人旅行消費額は1兆846億円から約3倍の3兆4,771億円へと急増した。

安倍政権は観光政策についてのさらなる「ビジョン」として、2020年の訪日外国人観光客数を4,000万人、外国人旅行消費額8兆円、続く2030年には同観光客数を6,000万人、同消費額15兆円という目標を掲げている。

金融と観光を有機的に結び付け、同時にフィンテックを活用することで誕生した全く新しい外貨両替システム「為替でGO!」は、従来の銀行や両替商に比べ、手数料が圧倒的に低水準であり、スマートフォンとクレジットカードさえあれば原則世界中の通貨が両替可能という点で、FX取扱業者の利便性を大きく上回る。また、アプリ内に観光関連企業に関する広告を掲載し、実際に訪れるとポイントが付与されるため、観光客は旅行を楽しみつつポイントを貯め、更なる両替手数料の削減を行うことができる。そして、観光関連企業は、アプリ上への広告掲載を通じて、自社の宣伝を旅行者に広く行うことができる。アプリの運営主体であるクレジットカード会社は、アプリ運営の必要資金及び自社の利益となる広告収入を得られるだけでなく、アプリの普及および利用者増大を通じてカード利用額の増加と新規顧客の獲得が期待できる。更に、経済社会全体としても、両替手数料の軽減を通じて経済の効率化が実現される。

以上のことから「為替でGO!」は、アプリの利用者である旅行者、その運営主体であるクレジットカード会社、更には観光関連企業、地域経済という4者すべてにwin-winの関係をもたらす画期的なシステムであると言える。

今後ますます拡大していくと考えられる日本の観光関連市場において、両替アプリ「為替でGO!」は、急増する訪日外国人観光客と、依然高い水準を維持する海外へと渡航する日本人観光客、これら双方の外貨両替ニーズを結びつける手段として必要不可欠となっていくことであろう。そして将来的には、日本という枠を超え、グローバル化の進展と新興国等の所得水準向上を背景に全世界で増大する旅行者やビジネスマンにとって必要不可欠な外貨両替ツールとなることが期待される。

[注釈]

- ¹ このアプリの運営主体はクレジットカード会社が望ましいと考える。
- ² この場合の国際カードブランドとは、世界中でクレジットカードが利用できるように決済システムを提供する会社のことである。

[参考文献]

- ・ 宿輪純一（2015）『通貨経済学入門』日本経済新聞出版社
- ・ 石井寛治（2007）『経済発展と両替商金融』有斐閣
- ・ 国際通貨研究所・竹中正治編（2009）『外国為替はこう動く』PHP
- ・ 林康史（2007）『基礎から学ぶ外国為替相場』日経 BP 社
- ・ JTB 総合研究所（2016）『インバウンド概論』JTB 総合研究所
- ・ 辻庸介・瀧俊雄（2016）『FinTech 入門』日経 BP 社
- ・ 加藤洋輝・桜井駿（2016）『決定版 FinTech』東洋経済新聞社
- ・ 山本正行（2012）『カード決済業務のすべて—ペイメントサービスの仕組みとルール』金融財政事情研究会

[参考 URL]

- ・ 観光庁 訪日外国人消費動向調査 平成 27 年（2015 年）年間値（速報）
最終閲覧日 2016 年 9 月 13 日
(<http://www.mlit.go.jp/common/001116071.pdf>)
- ・ 2020 年東京オリンピックの経済効果 日本銀行調査統計局
最終閲覧日 2016 年 9 月 13 日
(https://www.boj.or.jp/research/brp/ron_2015/data/ron151228a.pdf)
- ・ 訪日外客統計 日本政府観光局（JNTO）
最終閲覧日 2016 年 9 月 13 日
(http://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/pdf/160720_monthly.pdf)

・ 日本銀行 外為法の報告制度について

最終閲覧日 2016年9月13日

(http://www.boj.or.jp/about/services/tame/t_seido.htm/)

・ 大黒屋 HP

最終閲覧日 2016年9月13日

(<http://gaika.e-daikoku.com/>)

・ リアルタイム為替レート：三井住友銀行

最終閲覧日 2016年9月13日

(<http://www.smbc.co.jp/ex/ExchangeServlet?ScreenID=real>)

・ 中部国際空港 セントレア

最終閲覧日 2016年9月13日

(<http://www.centrair.jp/airport/service/exchange/currency/>)

・ OECD Tourism Trends and Policies

最終閲覧日 2016年9月13日

(Policies<http://www.oecd-ilibrary.org/docserver/download/8515041e.pdf?expires=1473744525&id=id&accname=guest&checksum=0AC25481756B5B54604C2A3A46CFEB34>)

・ JCM システムズ株式会社

最終閲覧日 2016年9月13日

(http://www.jcm-systems.co.jp/product_currency2/CE-i6/index.html)

・ サバイブ 日本ーわかりやすいお金のメディア

最終閲覧日 2016年11月18日

(<http://www.survive-m.com/gaika/19.html>)

・ 地方創生のための仕事づくり支援策

最終閲覧日 2016年11月18日

(<http://www.meti.go.jp/publication/downloadfiles/chihouseisei.pdf>)

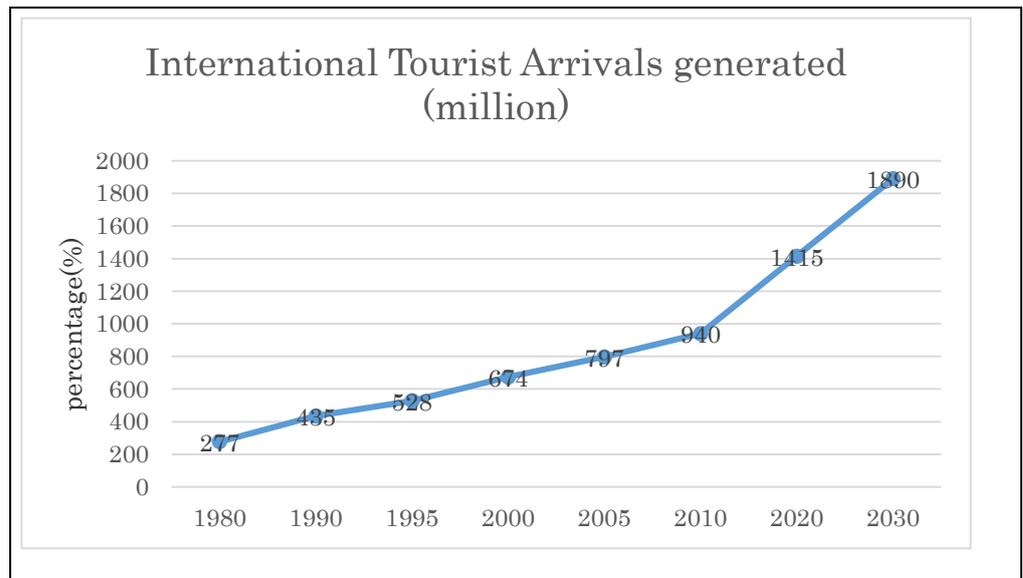
・地方創生に係る観光関係施策について

最終閲覧日 2016年11月18日

(<http://www.kansai.meti.go.jp/2chuusyou/150130kankoutyou.pdf>)

[参考資料]

資料① 全世界の海外旅行者数推移の概算



出典：OECDの観光統計 「OECD Tourism Trends and Policies」

<http://www.oecd-ilibrary.org/docserver/download/8515041e.pdf?expires=1473744525&id=id&accname=guest&checksum=0AC25481756B5B54604C2A3A46CFEB34>

をもとに作成

資料② 銀行・各両替商の外貨両替手数料

両替所	一ドル当たり両替手数料	一ユーロ当たり両替手数料
大手銀行	3円	4円
郵便局	2.8円	4円
大黒屋	2円	4円
空港両替店	2.5円～	4円
F X取扱業者	0.2円	0.2円
クレジットカード会社	1.6円～1.7円	1.6円～1.7円

出典：サバイブ 日本ーわかりやすいお金のメディア

<http://www.survive-m.com/gaika/19.html> をもとに作成

資料③ 外貨両替に関するアンケート

・アンケートの概要

調査方法： 浅草街頭、中央大学及び Google Forms による
Web アンケート方式

調査対象： 海外渡航経験者

有効対象： 109 人

調査期間： 2016 年 9 月 04 日(日)～9 月 23 日(金)

・実際のアンケート内容

外貨両替に関するアンケート(Foreign Exchange Questionnaire)

はじめまして、こんにちは。我々は中央大学経済学部金融エコノミストコース履修生です。
今回、授業活動の一貫として皆様に外貨両替に関するアンケートをお願いしたく、ご連絡させていただきました。

下記の新規事業案内容をお読みになった上で、アンケートにお答え下さい。

<新規事業案内容>

我々が提案する新規事業案は、板寄せ機能を利用した各通貨の需要マッチングアプリとクレジットカード決済を組み合わせた

新たな外貨両替システム、「為替でGO」である。

本事業案は、旅行者が事前に海外で使う予定のクレジットカードと通貨及び使用予定額をアプリ内で登録すると、A通貨をB通貨に換えたいという旅行者の両替需要と、その逆の両替を希望する旅行者両替需要同士がアプリ内で板寄せ機能を用いて自動的にマッチングされ、結果的にクレジットカードを介して双方の外貨両替がほぼ手数料なしで行われるというものである。

(新規事業案の構造図 I・II 参照)

なお、このアンケート結果を授業の活動以外で使用することは一切ございません。率直なご意見をお聞かせ下さい。

よろしくお願いいたします。

中央大学経済学部金融エコノミストコースチームD一同

*** 新規事業案の構造図 I・II として、資料④の概念図及び仕組みの図を使用。**

1. 外貨両替で困ったことは何ですか？該当するものをすべて選んで下さい。(Do you have any problems to exchange money? Please check all that apply.) *

- 手数料が高い (High charge)
- 両替所まで行くのが面倒である (It's troublesome for me to go to the money exchange counter)
- 手数料等で著しく損をしたことがある (I have ever lost money by exchanging)
- 両替所で言語障壁がある (I can't communicate with the staff at the money exchange counter)
- 為替レートを気にしなければならぬ (I must pay attention to the rate of exchange)
- その他: _____

2. 海外渡航での平均両替額として該当するものを選んで下さい。(How much money do you exchange when you go abroad? Please check that apply.) *

- 5,000円未満 (Less than 5,000 yen)
- 5,000円～10,000円未満 (5,000 yen or more and less than 10,000 yen)
- 10,000円～50,000円未満 (10,000 yen or more and less than 50,000 yen)
- 50,000円～100,000円未満 (50,000 yen or more and less than 100,000 yen)
- 100,000円～300,000円未満 (100,000 yen or more and less than 300,000 yen)
- 300,000円～500,000円未満 (300,000 yen or more and less than 500,000 yen)
- 500,000円～ (More than 500,000 yen)

3. 外貨両替の新規事業案に対する満足度として該当するものを選んで下さい。(Are you satisfied with our new project ?Please check that apply.) *

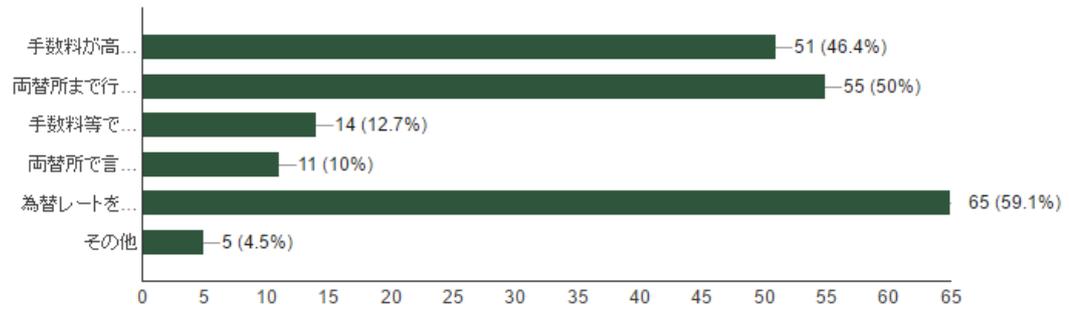
- とても満足 (Extremely satisfied)
- やや満足 (Slightly satisfied)
- どちらでもない (Neither)
- やや不満 (Slightly dissatisfied)
- とても不満 (Extremely dissatisfied)

4. 3で選んだ理由として該当するものをすべて選んで下さい。(Why have you checked it at Q3 ?Please check all that apply.) *

- 安全性が高い (High safety)
- 手数料が安い (Low charge)
- 役に立つ (Useful)
- 独創的 (creative)
- 手数料が高い (High charge)
- 非実用的 (impractical)
- 役に立たない (Useless)
- 安全性が低い (Low safety)
- サービス内容が複雑 (Complicated service)
- その他: _____

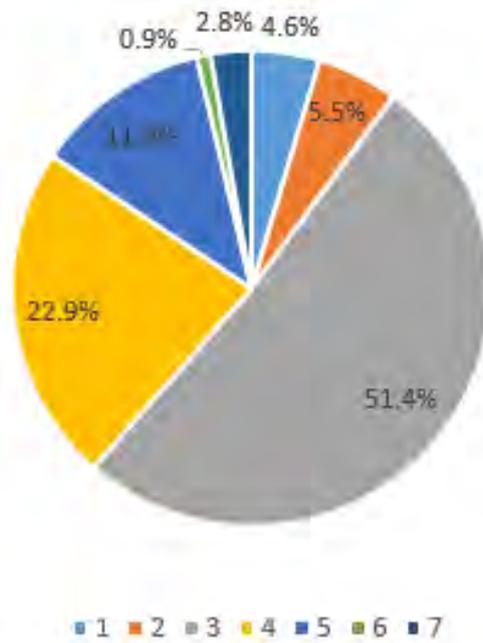
・アンケート結果

1. 外貨両替で困ったことは何ですか？該当するものをすべて選んで下さい。



- ・手数料が高い
- ・両替所まで行くのが面倒である
- ・手数料等で著しく損をしたことがある
- ・両替所で言語障壁がある
- ・為替レートを気にしなければならない
- ・その他

2. 海外渡航での平均両替額として該当するものを選んで下さい。



1: 5,000 円未満

2: 5,000 円～10,000 円未満

3: 10,000 円～50,000 円未満

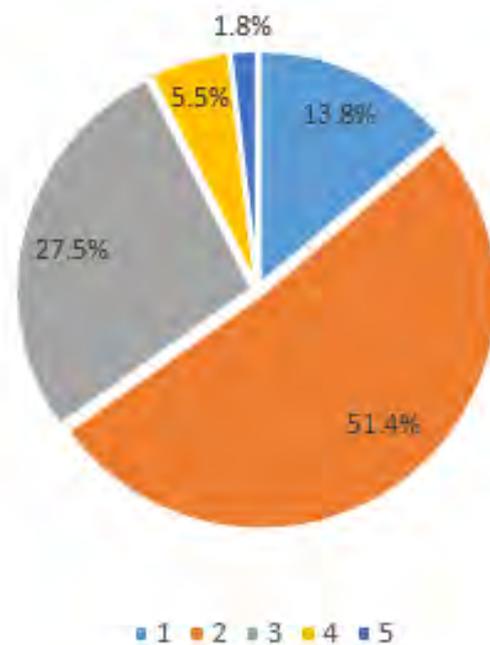
4: 50,000 円～100,000 円未満

5: 100,000 円～300,000 円未満

6: 300,000 円～500,000 円未満

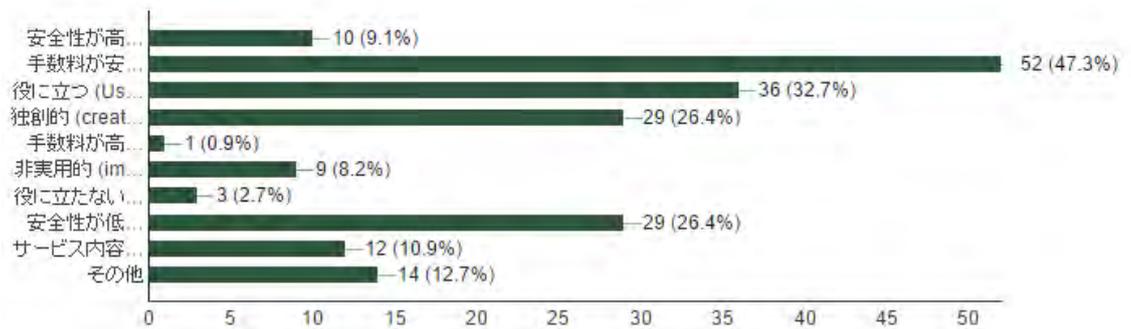
7: 500,000 円～

3. 外貨両替の新規事業案に対する満足度として該当するものを選んで下さい。



- 1: とても満足
- 2: やや満足
- 3: どちらでもない
- 4: やや不満
- 5: とても不満

4.3 で選んだ理由として該当するものをすべて選んで下さい。



- 安全性が高い
- 手数料が安い
- 役に立つ
- 独創的
- 手数料が高い
- 非実用的
- 役に立たない
- 安全性が低い
- サービス内容が複雑
- その他

資料④ 外貨両替アプリ「為替でGO」の仕組み
 (概念図)



(仕組み)

